

総務文教委員会

令和2年7月15日(水)
10時00分～ 時 分
第2委員会室

【委員】西村委員長、芦谷副委員長
三浦委員、西川委員、上野委員、永見委員、西田委員、牛尾委員

【委員外】

【議長団】

【事務局】下間書記

【議題】

- 取組課題「こどもの可能性を育む幼児教育について」
・6月8日の勉強会まとめ

2. その他

総務文教委員会
第一回勉強会のまとめ

2020年7月15日

西田清久 / 三浦大紀

1、幼児教育の環境整備は重要

(気付きと施策の種)

- ▶ 幼児期の体験（遊びの中での学び）がその後に大きな影響を与えるという幼児教育の重要性を共有。
- ▶ 幼児教育≠幼稚園教育であり、保育園に通うこどもが増加傾向にある浜田市においては、公立幼稚園<幼稚園<幼稚園・保育園という枠組みを広げた上での幼児教育の魅力化が重要。
- ▶ 公立・私立幼稚園と保育園、認定こども園が全園加盟する協議体において、情報の共有や勉強会の実施などを行うことが効果的。その設置の可否について検討が必要。
- ▶ 市独自の幼児教育環境が整備されていくことは、定住対策としても効果的。

委員会における今後の取り組み	インプットの形式
市内保育園の全園民営化の影響による市の関与度及びその内容の変化の把握	・ 執行部からのヒアリング
各園における取り組みの把握	・ 執行部からのヒアリング ・ 現場視察を含め、協議会等からのヒアリング
「公立」幼稚園及び保育園の必要性（それが担う役割）の明確化と整理	・ 執行部からのヒアリング ・ 勉強会（熊本大学 菅野一徳氏：公教育のあり方について）
幼・保等に通わない子どもたちに対するアプローチの整理	・ 執行部からのヒアリング

2、幼児教育現場における質向上のためにはサポートが必要

(気付きと施策の種)

- ▶こどもと最も接する人材（先生）の育成及び支援の充実は優先課題。
- ▶保育士及び幼稚園教諭の学びの場を積極的に設け、保育園・幼稚園間の交流、他事例やトレンドのインプットなどを行うことが必要。
- ▶県が派遣するコーディネーターは効果的。自治体単独のコーディネーター配置もより成果が期待できると考えられる（県内は3市が設置）。尚、浜田市はコーディネーターの市内全園訪問を依頼中。
- ▶こどもの日々の変化の観察・共有（推奨されているドキュメンテーション）といった、推奨される具体的手法を浸透させる上では仕組み化が必要。

委員会における今後の取り組み	インプットの形式
コーディネーター設置の可能性の検討	・ 執行部からのヒアリング ・ 県からのヒアリング（他市町村における実績等、厚生労働省の支援策活用可否）
ドキュメンテーションの手法と実践状況の把握	・ 執行部からのヒアリング ・ 現場視察、協議会等からのヒアリング ・ 勉強会（講師未定：効果的なドキュメンテーションについて） * 三条っ子発達応援事業：新潟県三条市の0歳から義務教育終了まで保護者・家庭等を応援していく事業。平成22年に総務文教委員会で行政視察。当時のメンバーからヒアリングも可能か。

3、社会を意識した環境づくりが効果的

(気付きと施策の種)

- ▶ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)では、社会で求められる力が具体的に示されており、その推進は、幼稚園・保育園にとどまらず、家庭保育はもちろんのこと、地域社会との関わりの中で充実していくと考えられる。
- ▶ 市で実践されているふるさと郷育を10の姿の実現と照らし合わせた検証と充実が必要。
- ▶ 市内社会教育施設は有効な資源であり、これらの活用促進が有効。
- ▶ 幼児教育と小学校教育の円滑な接続が求められる(小と中も同様に)。特別支援教育、発達障害、問題行動の早期発見などが重要なことから、協議頻度や協議事項の見直しが求められる。

委員会における今後の取り組み	インプットの形式
美術館、スポーツ施設、公民館、子育て支援センターなどを活用した幼児教育のプログラム(ゼロ歳からの読み聞かせ等)の研究	・勉強会(武蔵野美術大学杉浦幸子氏:赤ちゃんや保育園と連携した美術プログラムについて)
幼保・小・中の連携、それぞれと地域との連携を深める仕組みの研究	・視察(津和野町:縦・横それぞれに設置された部会についての協議体について) ・勉強会(講師未定:コミュニティスクールの実態について)